



安全パトロールを実施しました

去る7月14日（木）と15日（金）に安全パトロールを実施しました。お忙しい中対応をいただき、ありがとうございました。

今年度は訪問先を絞り、じっくりお話を聞かせていただきました。

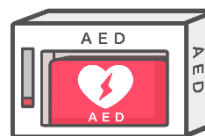
各施設とも室内の整理整頓はよくされており、足元や高所などに危険を感じる箇所はありませんでした。また、限られた設備の中で利用者さんにより良い環境を提供するために様々な工夫がされていました。

今後も職場内で話合うとともに、困っていることなどありましたら、所属長やお近くの衛生委員にご相談ください。利用者さんにも職員にもより良い環境を作っていけたらと思います。

※パトロールの詳細は職員衛生委員会会議資料をご覧ください。



AED 設置場所の把握を ～知っていることが命を救います～



先日、ある小学生が自由研究で作成した AED マップが迅速な救命措置につながった出来事がニュースで紹介されました。

AED（自動体外式除細動器）は心臓が心室細動（細かく痙攣している状態）を起こしているときにショックを与えて心臓を正常な状態に戻すものです。

当会でも防災訓練時に AED の使い方、心臓マッサージについての講習会が行われています。また、その他救命救急講習の受講などで使用法については心得のある方は多いかと思います。

そこで大切なのが、「AED がどこにあるのかを知っていること」です。

使い方を知っていても、器械を見つけられなくては何にもなりません。自分の職場、よく行く施設、自宅の周りなどどの建物のどこに設置されているかを把握しておくことが、誰かの命を救うことになるかもしれません。

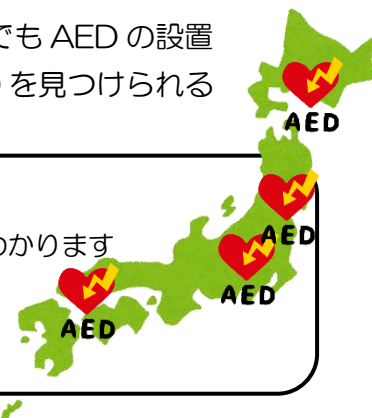
一回、身の回りを見回してみてください。また、インターネットでも AED の設置場所を紹介するサイトがあります。いざというときに一番近い AED を見つけれられる助けになります。

例えば…

◎ 松本市 HP「地図で見る松本」…建物のどこに置かれているかもわかります
その他各市町村の HP で紹介されています。

◎ 日本救急医療財団 AED マップ

その他「AED マップ」で検索するといろいろなサイトがあります



身近に潜む食中毒にご注意を

夏場の高温多湿を好む細菌による食中毒が心配な季節となっています。食中毒の予防の基本「つけない」「増やさない」「やっつける」を合言葉に予防を心がけていきたいものです。

また、日常生活の中にも食中毒の要因は潜んでいます。

！ 飲みかけのペットボトルによる食中毒

ペットボトルに直接口をつけると、口の中の細菌がペットボトルの中に入り込みます。さらに常温で長時間保存すると、その数は増殖を早め、食中毒を引き起こすところまで増えてしまう恐れがあります。特に気温の高い夏場は、飲みかけのペットボトルをバッグに入れての持ち歩きはできるだけ避けましょう。

◎できれば1回で飲み切る（1回で飲み切れない場合はコップに注ぐ）

◎飲み切れなかった分は冷蔵庫で保存（持ち歩く場合は保冷のできるホルダーに入れるなど低温状態を保てるようにする）

！ エコバッグにも食中毒の危険あり

近年すっかり定着したエコバッグですが、お洗濯はしていますか？

特に食品を入れる場合は汁がこぼれてしまっていることもあり、そこから細菌が増殖してしまう恐れがあります。

◎こまめな洗濯 ◎汁がこぼれたり、土がつく心配のある食材はポリ袋

を利用する ◎水平を保てるよう袋への詰め方に気を付ける ◎エコバッグでの持ち歩きはできるだけ短時間にする など清潔を保てるようにしましょう。



新型コロナウイルス第7波

一時期は落ち着きを見せた、新型コロナウイルスの感染状況ですが、オミクロン株の変異株であり、より感染力が強いと言われているBA.5の広がりとともに、第7波となる感染拡大に入りました。長野県でも今までにない感染確認状況が続いており、7月27日には確保病床使用率が35.6%となったことから7月28日に「医療特別警報」が発出され、松本圏域では警戒レベルが「5」に引き上げられました。

行動制限は行わず社会活動を継続しつつ、医療の逼迫を抑え、自分や周囲の人を感染から守るためにも、今一度基本の感染予防の徹底をお願いします。

長野県からの【感染警戒レベル5の圏域の皆様へのお願い】（抜粋）

1. 重症化リスクが高い方の感染を防ぎましょう

○重症化リスクが高い方及びその同居者・身近で接する方は、混雑した場所、換気が不十分な場所等、感染リスクの高い場面・場所をできるだけ避け、感染しない、感染させない行動を徹底してください。

○60歳以上の方、基礎疾患のある方等、医療従事者・高齢者施設の従事者等で3回目接種から5ヶ月経過した方は重症化予防につながる4回目ワクチン接種を積極的にご検討ください。

2. 陽性者の増加に歯止めをかけましょう

○この夏、帰省や旅行をされる方、お祭り等に参加される方、中学・高校等の生徒及びそのご家族など、若い世代の皆様も、感染リスクを下げるための3回目までのワクチン接種を積極的にご検討ください。

3. 医療機関等の負荷を軽減しましょう

○重症化リスクが低く、検査キットをお持ちの方には、受診前に自ら検査することを推奨します（陰性でも感染していない確実な補償にはなりませんので、マスク着用等の感染防止対策は継続してください）。